

岡田コミュニティセンター市長懇談会

○日 時：平成 30 年 7 月 14 日（土） 午前 10 時～11 時 30 分

○場 所：岡田コミュニティセンター

○参加者：60 名

○担当者：市長

地域担当職員 竹林（市民課）・山崎（産業観光課）・森近（行政管理課）
藤井（健康課）

1. 会長あいさつ

今日も暑い一日になりそうですが、市長懇談会にたくさんの皆さんにご出席をいただきありがとうございます。先週末西日本では、集中豪雨による大規模な被害が発生している。今日の新聞では、死者が 200 人以上、被害家屋が 3 万戸以上という非常な大惨事となっている。被害にあった県も、香川県のすぐ西隣の愛媛県、向かいの岡山県、その西隣の広島県で四国近辺の県で被害が発生している。丸亀市でも 4 日間に亘って大雨警報、洪水警報が続くというこれまで例のなかった事態となっている。この岡田では、一部山肌が崩れる等の被害はあったが大きな被害はなかったと聞いている。被害に遭われた方にはお見舞いを申し上げたいと思います。今回の災害行動に接しながら、私たち自身の行動で気がついたことがある。ひとつは、避難情報を根拠もなく軽視してはならない。もうひとつは、遠くの親戚とか友人、知人はあまり当てにならない。それからもうひとつは、避難するときは、隣近所に声をかけあうことが大切ということを感じた。私たちが住んでいる岡田は、これまで大きな災害とは縁のなかったところである。そうはいえ、ため池や水路がたくさんある。それから土砂災害の危険箇所が南部や西部の山添を中心にある。私たちが知っている数十年の経験で、災害がこれまでなかったから大丈夫ということと言ってもあまり意味がないと思っている。この辺りでも最大震度 6 強の強い揺れが予想される南海トラフ地震はいつ発生してもおかしくない。そういう状況にあるのも今一度認識しておく必要があると思っている。今日は、梶市長と膝を突き合わせて話ができる少ない機会であります。岡田にとっても、高齢化はどんどん進んでいる。それから農業の荒廃とともに土地が荒れているところも多くでてきている。それ以外にもいろいろ問題があると思うが、われわれが事前に提出した質問もあるが、それ以外みなさんが気づかれて市長にこれは問いただしたい、市長に提言したい。いろいろあると思うが自由に忌憚のないご意

見をいただきたいと思っている。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2.市長あいさつ

今日はお忙しい中、また大変暑くなっておりますが、大勢のみなさんが自治会長会、また市長懇談会に出席いただきありがとうございます。こういった機会を通じて、是非これからのわれわれの暮らしが少しでもよくなるように、お互いに力を合わせていきたいと思っているので、よろしくお願いいたします。今会長からお話があったが、丸亀はお城の石垣が崩れて大変ではあるが、人の被害はほぼなかったのよかったです、西日本の各地、岡山、愛媛が中心になるが、広島も出ているが、今市役所の職員もたくさん応援に出ている。消防、水道がまず行くが、あと建設関係の職員、事務系の職員、保健師、社会福祉協議会も出かける予定です。また自主防災も川西防災会を中心に今日から支援に行くということを知っている。会長が話されたことは正しいことではありますが、私自身が思っているのは、市がいろいろみなさんに周知する場合には、どうしても大雑把です。例えば岡田地区に避難勧告を出しても、家によって全く状況が違う。災害の種類によっても違う。ですから行政が言うのは、それをそのまま避難勧告が出ないから避難しない。避難勧告が出たから避難しないといけないと決め付けると、非常に危ないことになると思う。ですから、あらかじめ自分自身のお家の状況、あるいは自分の体の状況をまず確認していただきたい。急に夜中に言われても絶対避難するのは無理だと思えば早めにコミュニティに相談する。あるいは市役所に言っていて、安全なコミュニティセンターに先にきておく。あるいは雨で土砂崩れがうちの家は心配だというときには早めに移動する。家の中の家具の転倒防止とかに力を入れる。家々によってどこに力を入れるかが絶対違うはずで、それを少し考えないと行政がやるのはどうしても大雑把なので、必ずしも適切にやれるとは限らない。言い訳でなく本当にそれぞれの身を守るということを考えると、そうせざるを得ないと思っている。そのために、例えばうちの家は大丈夫か、そういうのはちゃんと資料をとってハザードマップとか浸水の予報とか地震が起こったときにどうなるかは行政がお手伝いする。最終の自分が気をつけるというのはぜひ、みなさんで心がけていただければ、なお安全性が増すと思う。

3.「第二次丸亀市総合計画」、「都市計画マスタープラン（改訂版）」について （市長）

昨年1年間をかけて、丸亀市の新しい総合計画、合併後最初の総合計画が10年で終り

ましたので、その次の総合計画を昨年1年間でみなさんの意見を聞きながら作りました。併せて都市計画のマスタープランの中間の見直しを昨年行った。新しい総合計画の議論をいろいろみなさんから聞いたときに何が問題かという、これから子どもがなかなか一気に増えない。そして高齢者が増えていく。経済成長は昔のような時代ではない。そうすると何が大事かという、人口が減ってでも不幸にならない、地域がちゃんと保たれる、そういうことが大事ではないのか。そういう地域を作れば逆にそこから人が増えていくのではないのか。若い人が働きやすいとか、家庭を作りやすいとか、そういう状況を作るしかないのではないのか。高齢者の方で言えば、どこまでも元気で住み慣れた地域でくらすようなそういうところが必要ではないか。一言でいえば、くらし重視、普段の生活を重視する、そういう総合計画になっている。この総合計画というのは、ソフトとハードの両方が書かれているが、全体を私たちの日常生活を豊かにする方向で決めました。全体のスローガンとしては、「豊かで暮らしやすいまち丸亀」としました。それから都市計画の方ですが、これは従来の都市計画と大きな変更はないが、より強調されたのは、いわゆる開発を全体にバラバラに進めるのではなくて、都市的な機能はなるべく固めていこう、そして固めた拠点を丸亀でいえばコミュニティバス、コトデンなどの公共交通で結んで移動できるようにしようという考え方です。横文字でいうコンパクトアンドネットワークですが、国もそういう方向で行っています。丸亀市全体の町の中心というのはどうしても市役所がある、お城と駅ということです。岡田地区からいえば、随分外れたところに中心があるということで、ご意見があると思うが、いろいろなものをこれまでもそこに集積しておりますし、今度の新庁舎建設の議論でもあったが、やはりそこをひとつの都市としての丸亀の中心にせざるを得ないであろう。従いまして新しい市役所、新しい市民会館を整備するのであれば、バラバラにするのではなく、できるだけ近くにおいて、そしてそこの移動をもっと円滑にしていこうというのが今回の考え方です。詳しいものはコミュニティセンターにも本編の資料があります。それぞれ見ていただければありがたい。以上これからの町づくりの方向について少しお話をさせていただきました。どちらにしても地域の中で私たちがこの岡田の中で、どうすれば不安のない生活、あるいは安全な生活、そして少しでもくらしやすい生活が送れるのだろう。これが大きな本筋の柱ということになる。その点でコミュニティの活動というのはそういう意味でも重要だと位置づける。安全対策にしても、いわゆる大規模に大型の堤防をつくる発想の安全対策ではなく、ひとりひとりのそれぞれの家にあった具体的な命を守る施策をたてる。そういう考え方でやっていこうと思っている。

4. 事前提出の懸案事項

(1) 移動困難者に対する取り組みについて（男性）

高齢化に伴って全国的に移動困難者、さらに免許証の返納が今後ますます増えてくるといことが予測されるので、今コミュニティバスの充実ということがお話にあったが、それも含めて移動困難者に新たにどのような取り組みをなされようと思われているか。もう1点は都市計画の件で、コンパクトシティとしてお城を中心に公共事業を新設するということもあるんですが、公共交通ということで考えると、丸亀市全体をとっても栗熊、岡田、綾歌地区というのはコトデンという高松琴平を結ぶ線路があって、これとのネットワークづくりについても都市計画の中でしっかり考えていただきたい。公共交通の充実、特にコミュニティバスやグランドタクシー等新しい方法も含めて、これから市としては検討に入るというお話も伺っているので、その辺のことも含めてよろしくお願いします。

(市長)

実は昨年にもこのようなお話を頂戴して、また引続きということで、これは大事な問題だということだと思う。平成29年の1年間で免許返納した市内の高齢者の方は360人います。前の年と比較して43人増えている。免許証を自主返納した場合に、「運転経歴証明書」を県からもらうことができる。この証明書を見せると、タクシーの割引や様々な優遇制度があるが、これを香川県ではできるだけ充実をさせたい。丸亀コミュニティバスでは、運賃半額制度を設けている。200円が100円になるのですが、この制度を上手く活用していただきたいのがひとつ。もう一方では、なかなかこれだけでは移動手段ができない。コミュニティバスも停留所に行くのも大変だ。停留所に椅子がない、屋根がないというような話がある。従って利用できるような交通機関にする必要がある。それで今介護保険の事業計画と併せたような「地域公共交通網形成計画」を作る作業をしている。その中では、もちろん高齢者が中心になるが、それ以外の交通弱者、障がいをお持ちの方、子どもも含めて、どういうものが移動を保障するのかということを検討している。それについては、当然予算がいるわけです。コミュニティバスを今の倍走らそうとすれば、単純に予算は今の倍いる。今までできていないということは、財政の手当てができていないということである。これをどうしても作らないといけないということで、全体の事業を見直して、今までやっていたのを、少しだけこっちに振り向けるということも必要ではないかと考えている。例えば、敬老会の関係では、敬老対象者が増えてくるので見直しをする必要があると議会等からも言われている。今までは77歳、88歳、99歳以上だった敬老祝金、敬老会についても対象年齢が早すぎるという意見もあるので、見直しの検討をしている。そうすると予算的に少し余裕ができるので、高齢者の移動手段などに利用できないかと考えて

いる。そんなことを含めて、先ほど言いました地域公共交通網形成計画をしっかりと議論するので、これについてはコミュニティでまた意見を聞く機会もあると思うので、よろしくをお願いします。

(男性)

現在の予算を見直すということで、いくらかの予算はできるのではないかというお話でしたが、もう少し抜本的な予算措置をしていただくことが公共交通形成には必要ではないかと思う。その点をお願いしたいということと、もうひとつは予算がそんなに伴わなくても、コミュニティバスの停留所の数を増やして使い勝手をよくするということはすぐにもできるのではないかと思うので、新しい計画を待たずにどんどん進めていただきたいと思います。

(2) 地域に飛び出す公務員について (会長)

普段は公務員としての仕事をしながら、ひとりの地域住民としてボランティア活動や地域活動、PTA 活動に従事している人をさしているようですが、最近全国的にもこういう人がだんだん増えていると聞いている。公務員が地域に入り込むということではいろいろな知見が得られる、人を知ることはこれからの自らの仕事に役立つと考えている。岡山県の真庭市長が「行政は地域の方々の幸せづくりの会社である」と、非常に上手い表現をされたと思います。やはり住民目線に立った仕事というのはすごく大事だと思う。そうは言いながら、普段仕事をしながら空いた時間でというのはなかなか大変なところもある。そういう中では、市の中での理解、そういう人に対していろいろな支援をするということも必要だと思う。これに対して市長のお考えを聞きたい。

(市長)

『地域に飛び出す公務員』についてですが、これは流行りと言ったらおかしいですけど、非常にいい公務員像として全国的に言われている。職員も「一住民」であるから、当然皆様と同じようにそれぞれのお仕事を持ちながら地域活動をしているわけです。だからそれと同じように市の職員であると同時に、一住民として地域活動へ参加することは、市民としての責任であり義務だと思うので、それは職員だからしなくていいということではないと思う。さらに、そういうことに参加した方が、直接自分の行政の仕事に繋がるという意味では非常に市民感覚に優れたいい職員として育ち、自分自身の成長にも繋がると思うので、積極的に奨励したいと思っている。横に4人座っているが、実は地域担当職員という制度を作らせていただいた。これも今年度から地域づくり担当を従来1名だったが2名にさせていただいた。そのうち1人は若手という指定にしている。若手は1年交代、もう1

人は管理職、これはもう少し長くするという組み合わせにして少しでも多くの職員が地域活動に参加するよというこで、少し背中を押すよな取組を進めている。ですが、職員がひたすら自分を犠牲にしてやるかというこ、それではいけませんので、できる限り市として全体的に職員を支えよ、応援しようというこで、地域担当職員の場合は正式な業務の内のひとつというふう位置づけることにした。自分の本来業務と併せてこの仕事もあるというこで、当然勤務時間外とか休日とか、必要な場合には手当をつけてでもきちんと活動補償をするよにしている。他の人との差ができるから、それはどうなるのかという話ですが、これ以外の人にももちろん積極的にもし何かあれば優先的に活動を保障するよいうことを言っている。現在でもスポーツ指導とか競技会の審判とかいろいろ活動をしており、そういう場合には、例えば謝礼などが発生すると公務員の場合はややこしいことになるが、これは兼業の許可というのを事前に出す、つまり正式に認めるよいうこで奨励をしている。そんな形でこれからも積極的にしていきたい。特に綾歌、飯山の旧役場の職員は消防団を含めて積極的にやっていた。大きい丸亀市になるとそこがちょっと見えにくいよいうこがあるかもしれないが、いろいろな場面で私も見かけるが、かなりやってくれているんじゃないかと思っている。ただこれは、真庭市長がおっしゃったように市役所というのは市民の幸せを作る会社。これはもう本当にこのとおりだと思よ。ただブラック企業であってはいけないよいうこで、場合によると職員は住民の奴隷みたいなそういう扱いをする住民もいらっしやいまして、公務員、特に学校の先生の中で、うつ病になったりする人が多いですが、それは非常に理不尽なことをおっしゃる住民の方がときどきいらっしやいます。しかしなかなか公務員という立場で、もうこれ以上聞きませんとシャットアウトすると、これがまた間違いだよいうこで、クレームとかがある。これが非常に実は大変なこです。住民の皆様方もそこはご理解していただいて、地域活動の中でもしている人がりっぱで、していない人が駄目、あるいはするのが当然だとか、ここまでいくと難しいと思よ。あくまで参加は促しておりますし、職員もできる限りそれに答えたいと思っているよので、ぜひそういうことを誉める、誉めて使っただきたいと思ようので、ぜひよろしくお願ひします。

(会長)

私も職員に無理強いをするつもりは全くない。私も会社勤めをした経験から、実際仕事をしながら地域活動に加わるとよいうのは非常に難しいこだと思っている。そういった中で大事なこは、市長なりそれぞれの職場の上司がよく理解をして支援をしてあげることだと思よ。仕事の負担を減らしたり、場合によったら有給休暇を与えたり、そういうこ

によって、市役所の仕事もそうだが、地域に入ることは非常に大事だということをみんなに知らしめていくということが大事。役所でそういう動きが広がれば、当然企業にも及んでいく。仕事だけがすべてではないということをみんなが理解するようになるのがすごく大事なことだと思っている。上司の方の理解、職員の無理強いということではなく、理解をお願いしたいと思います。

(市長)

上司、特に管理職側の課題として十分に徹底するようにしたいと思う。

(3) 農業用 用水路について (男性)

池の総代の要請があってやっているのですが、今まで気がついていないことが浮かんできた。この間の雨のときもそうですが、岡田地区は多少の被害があったと聞いているが、用水の改修はしているのですが、用水については田んぼへ配る配水と田んぼから水がいらなくなったときの排水と2つあるのですが、圃場整備をしているのを見てみると、上の方は池に水を配るときたくさん水が流れているが下に行くと田んぼに入れる水が少なくなって、用水の幅もだんだん小さくなって、最後は水が来ないでもいいという形が田んぼに入れる配水だと思うのですが、田んぼの水が排水を兼ねている用水がある。そういうものについて設計の段階で地域の特性を分かって設計されたのか、その辺がちょっと分からないのですが、設計ができて地元と話をしてほしいのですが、専門の人がいないからそういう細かいところまで分からないので、実際この間の梅雨時期の雨がかったときに下の方で用水をオーバーしそうになった。それで実際水の見回りを雨の降っているときにして、用水の分水のところを一方から流すのではなく、2方向、3方向と分岐しているところは開けて平等に水を分散させることをやっても用水が一杯。たぶんそういうところはうちの方だけではないと思うのですが、他でもあると思うので、そういうところの用水の見直しを計画的に調査していただいて、今後改修計画を市の方でどうされるかお聞きしたい。というのは、今の大雨は局地豪雨で、昔の梅雨ならじとじと量の少ない雨が何日も続いたが、今は局部的に瞬間に大量の雨が降るということなので、どこの地域においても氾濫とかが出てくる可能性があるのではないかとということで、提案させていただいた。

(市長)

今の現状から言うと、道路とか宅地とか浸水が発生する。こういうことが起こった場合には地元関係者と本市では、道路や宅地などへの浸水が発生している箇所については、地元関係者と協議しながら水路のかさ上げをしたりして、できるだけその後の被害がでない

ような対策をしている。おっしゃるようにその箇所の対応だけでは抜本的な解決ではないというご指摘は分かる訳です。さらに農業用水路がこれまでのような雨水の排水の方の排水路としての両方の機能を持っているのも分かっている訳ですが、排水対策の方が重要ということで、これの整備計画とか工事をすることの必要性はある、ゲリラ豪雨という話もありましたのでこれからこういう必要性がある、たぶん出てくるという想定は市の方もしている。これを全市的に全部見直せというと実際には予算面、あるいは体制面でも不可能ということをご正直に言います。水路ごとに全部を見てここの立方がいくらで想定がいくらという計算をするというのは難しいことですし、コンサルに委託してもおそらく莫大な費用がかかるというのは想像できる。もちろん計画的にやるということですが、やはりよく言われる、事故が起きなければ信号機はつけないと悪く言われるんですが、悪い意味でなく、それまでしないという意味でもなくてやはり状況が本当に変わります。水路の状況、宅地開発の状況等によって水の流れというのは本当に複雑ですので、やはり実際被害が出る、出そうという情報を元にそこから重点的に直すということになると思う。今排水の関係では、旧市内で昨年台風のときに床上浸水にあった箇所がある。今津町とか津森町、城東幼稚園の前とかはいつも水が出る。そういう箇所がいくつかある。そこを対処療法になるが、道路をかさ上げ、水路を少し広げる等をして、今回の雨では被害なしということになった。ですから今後もそういう対応をする必要がある。岡田の中でも従来とは違うところがたくさんある。これはやはりその都度、これまでも議員さんを通じて、指摘していただいたり、地域のそれぞれの役員の方から農林水産課の方へ言っていたりしている。こういうことをずっとねばり強く繰り返していくことが必要だと思っている。防災の観点から非常に重要だということですので、できる限りやっていきたいと思う。

5.自由討議

① 災害について（男性）

3年程まえにこちらに帰ってきた。5年ほど前に宇治市で集中豪雨の災害にあった。それを踏まえ提言したいことがある。朝起きると丸太がいっぱい川に流れていた。仕事場が山奥で、そこへ行ったら通行止めになって、消防がだめだということで、引き返しリュックとおにぎりを持って消防に通してくれと言ったら、自己責任だったら通ってもいいと言われた。自衛隊は危ないからと言って撤去した。自分と牛を飼っている人が餌をやらないといけなと言って、その2人で山道を行った。自衛隊も消防も来なくて、3時間くらいかけて着いた。村の区長がユンボを持っていて、自分はチェーンソーを持っていて、牧場の人

はフォークで道をのけていった。終わった頃に消防がヘリで降りてきて、手伝ってくれて、その次に市役所がきた。市役所が弁当を持ってきたが、それが腐っていた。それを食べた人が10人ほど救急車で運ばれた。なぜ腐ったかという、小学校のグラウンドに落としたのを、炎天下にそのままにしていた。それで食中毒が起きて、市長と住民が裁判になった。ちょっとした油断でなにが起こるかわからない。特に暑い夏は応援したつもりが、逆に腐った弁当を送った。そういうことがあるから、役所は気をつけた方がいい。災害が起こったらパニックになるし、若い人が気がつかないことがある。そういうこともあるから気をつけてほしい。

(市長)

役所で一番悪いのは縦割り。自分の仕事はこれという、私はこの弁当をあそこに持っていくということしかみていない。その前後が分かっていない。例えば地域の中でお祭りとかの主催者側で訓練をつんでいたら気がつくかもわからない。そういうことが非常に大事。公務員は怖い立場にあるということを今の話で感じた。

② 垂水橋の歩道について (男性)

昨年の市長懇談会に行けなかったもので、その時にお尋ねしたかったことをご質問させていただく。まず1点目は昨年の市長選のことについてですが、保守系の市長と革新系の市長で争われて大きな争点は革新系の市長でいいのか。保守系から言えば、国や県は保守系で、丸亀市が革新系だったら向いてくれない。丸亀市はほっとかれる。分かりやすく言えば丸亀市民全体が損である。というようなことが大きな争点だった。もうひとつは丸亀市民会館の話があった。梶市長も反論として、近隣市長の交付金とかそのような例を出し、そんなことはない。というようなことで否定されておりました。ですが、政治家ですから、梶市長が嘘を言われるということではなくして、やはり自分に有利なことは言うけれど、不利なことは言わないというのが人の常だと思う。それでいくら市長が否定されても、われわれ市民としたら、国や県が保守系だから首長が保守系でなかったら損するぞと言われてたら、なるほどそうかなあと当然思う。私は最初梶市長を支持した。去年は地元出身の保守系市長でもあるし、中方橋が災害になっても対応が遅々として進まず、住民が犠牲になったようなものです。そういうことを考えると、保守系が首長を決めるバロメーターではないが、大きな争点だった。それで、市長が変わらないですよと言われるよりも、実績をつくってそれを払拭してもらいたい。あれだけ多くの得票を得、支持していただいたのだから、梶市長も責任があると思う。私が提案や要望を申し上げるのは、お手元にお渡しした資料ですが、1年余り前に、琴平高校に通っている学生が垂水橋を越えて左に曲がった

ら、舗装された交通量の少ない自転車で行くのに通りやすい道ですが、風が吹いたりするときは橋の手前を左に行く。それは舗装されていない砂利の悪い道です。垂水橋の歩道がないために、砂利の道を何キロも行く。問題はお手元の資料ですが、四国地方整備局から資料をいただいたが、土器川には20本くらいの橋が架かっている。国の管理は河口から19キロまでで、垂水橋は丁度真ん中くらいだが、歩道のあるなしをいったときに、なしはコトデンと高速道路がない。それともうひとつが垂水橋である。それ以外は全部歩道が外付けなり内付けなりである。垂水橋だけがない。それも何十年もほったらかしになっている。事情はいろいろ想像できる。行政区域が違ふとか地元の県議、市議、地元の熱意や通学路やいろいろ事情はあるが、20本の橋の真ん中で通行量の多いところがなしでできている。今回私が質問しようと思ったきっかけが、大阪でブロック塀が倒れて日本列島がブロック塀ばかりに行政は向いているが、犠牲者が出なければ行政は動かない。垂水橋でどなたかが犠牲にならなかつたら、歩道にならないのかと思う。それで現場を見ると、南側に県水道の管が通っており、5～6メートルずらしてつけている。早く言えば、外付けの歩道をつけるスペースを空けてくれていると思った。外付けで工事するのは全く問題ないように思う。だから、革新系の市長でもできるということ、市単独でもそんなに多くはいらぬと思う。20本の真ん中で交通量も多いのに、つかないというのは不思議である。多くの支持者をいただいたのだから、革新市長でも今までできなかったのができたと、支持に答えたい。私は市長の責任でなく、綾歌町のとくにできてなかつたらいけない問題と思うが、できていないのが現実なので、それを払拭するために、1～2年のうちにお願ひしたい。

(市長)

おっしゃっていただいたとおり革新であろうが、やらないといけぬことはきちんとできるということ、ぜひお見せしたい。垂水橋については、近隣のコミュニティのみなさんから総意として改修の要望書をすでにいただいている。中方橋の災害というのは、全く想定外で、国の方の予算も道路は道路、河川は河川という縄張りのようなものがあり、川の方へ重点的にという融通がなかなかきかない。そうした中でも丸亀市としては垂水橋。中方橋はすでに入っているので、新規の事業で垂水橋ということで要望している。県が架け替える、丸亀市は地元負担金を払うという構造になるが、ここが丸亀市としては最重点、丸亀市の予算でやったらいいということですが、制度面とか予算も大したことはないとおっしゃいましたが、実は相当な金額が必要です。それをやるにはいくつかのハードルがあると思う。要望が出されておりますから、毎年毎年どういう検討をして、今どうであるということをお知らせする必要があると思っている。

(男性)

それは市長の熱意だと思う。いろいろ事情はあると思う。現実はこのようになっており、南側の乙井大橋は両側に2 mの歩道がある。その横の垂水橋は何十年もほっとかれてついていない。ですからよろしくをお願いします。

(市長)

貴重な資料もありがとうございました。がんばります。

③ 財政状況について (男性)

今一番丸亀市の心配が財政状況です。今まで合併特例債を使ってほとんどの学校が耐震並びに建替えをされてきました。聞くところによると国の借入金が600億円くらいと聞いている。それでこれから、市役所の建替えであるとか市民会館、それから先日新聞に載った昭和町の下水道の処理施設。130億使って新築するという。猪熊弦一郎美術館、丸亀市の図書館の耐震補強工事をしていく。それからコンパクトシティ中心市街地の活性化を図っていくために、大手町周辺、駅周辺、それから北側にあるこんぴら参りの舟着き場、太助灯籠があるところですね。国の補助金をいただいて整備していくということですが、丸亀競艇場もナイター設備するかしないかというときに、丸亀市民の4割近くが反対したが、当時課長がこれからの時代はナイター設備にして、場外売り場、全国からの電子投票になってくるので、どうしてもこれはやりたい。という強い意志を持っている課長で、これが成功して今日本一ですね。そういう収益もあると思うが、わたしは丸亀市の財政が危機状況にあると思っている。丸亀市は合併した12年前は財政収支比率が非常に悪くて、北海道の夕張市に次いで、丸亀市が破綻するのではないかという噂が流れた。当初合併してすぐ3年間の行財政改革委員会を立ち上げて、3年間で160億円、民間に委託できる施設は民間に委託しようということで、節減ができたように思うが、それ以来丸亀が最小限度の出費で、最大限の効果を上げなければいけないという考えが丸亀市全体からどっか行ったのではないかと考えている。市民も丸亀市の財政がよくなければ市民サービスもできません。これからの財政のやりくりが大変だと思うが、どういうふうにご検討されるかお聞きしたい。

(市長)

借金の残高が約600億円、年間予算が435億ですからそれよりも多いということで、誉められた数字ではない。問題は合併特例債という合併に伴う借金が残高の中で大きい部分を占めており、これは国から財政補填があるという約束のもとで借りた借金ということ

です。額面だけみると額が多いように見えるが、そのうちのいくつかは国が保証人になってくるという解釈をしてくれてもいいと思う。財政の様々な指標があるが、その中で実質公債比率がある。それは、借金払いの率がどうなのかという比率であるが、丸亀市は4%台であったと思う。これは県内8市の中でいえば、かなり良好な数字になっている。おっしゃったようにこれからたくさん作るじゃないか、それが大丈夫かということもあろうかと思う。大きいものは市役所、市民会館、あとはコミュニティセンター、消防屯所とかそういう箱物でいえば、丸亀市の力で言えば、平年でも40億は使えるというレベルです。いまそのレベルが少し膨らんで50億くらいになっている。これが一気に100億になるのでどうなるかというご心配だと思う。浄化センターは下水道会計になっている。若干一般会計からの繰り入れには影響するが、大きい工事の本体は下水道会計という計画でいる。今基金は130億くらいある。それで新しい市役所の資金の計画としては、50億の合併特例債を残しておりますので、ボートレース事業が今いい状態で、ここから市役所等建替えの直接繰り入れとして約132億を予定している。これはすでにたまっているお金ということです。そのお金で180億余りある中で、なんとか借金を残さないで建てていこうという計画である。あとは、通常の40億~50億の丸亀市の力でいえば毎年これくらいは社会資本整備に使える部分があるので、それでやっていこうということです。それ以外の、社会保障費、扶助費、子どもたちのための費用をできるだけ確保したいと思っている。これはおっしゃるとおり非常にきびしい。やはり税収が増える、住民が増えて税収が増えるということがないとそこは十分に手立てがしにくい。行政改革が滞っているのではないかというご心配ですが、そういうことではなく、きびしいまま今もずっときている。競艇の資金も百何十億も出せるくらいたまったというのは、昔の競艇の収益が税金より多かった時代は、国の補助金をもらわずに道路整備をしたり、水道管を作ったりしていた。規格にないものまでできていた。そういう使い方は、今はしておらず、基金に貯めることにしている。よく政府が地方創生のためにいろいろ制度を作ってお金を出しているというときに、特別交付税により措置すると書いてあるが、ボートレースがあるということで、一人あたりの交付税額は、三豊市やさぬき市と比べたら、一人当たり3分の1という記事が新聞に掲載されていた。競艇の収益は貯金し、特別交付税額は少ないという厳しい状況ですが内部的なやりくりで他の自治体に負けないサービスを維持していると理解していただきたいと思う。今後の財政見通しで言えば、庁舎と市民会館で残す借金は合併特例債の50億以上は残さない。耐震化とかコミュニティセンターも飯山南、垂水、飯野が終れば全部終わる。そういう状況ですので、少しペースダウンして健全財政を保つという腹積もりでいる。丸亀の企業は今のところ頑張っていており、固定資産税等も増えている。今

後は市民が増え、企業が増えれば税収も着実に伸びるという計画である。ご理解いただきたいと思う。

(男性)

再来年3月に宇多津町に水族館ができる。年間130万人の入場者を算定している。レオマも宇多津まで来たお客さんをレオマに引っ張りたいということで、パンダを借りたいということで頑張っている。徳島からこんぴらさん、香川へのアクセスの財田トンネルが来年の10月に開通する。それで中讃地域に再来年くらいに観光客が来られると思う。県もこれからの少子高齢化の時代に何か収益を上げていかなければいけないということで、瀬戸内芸術祭が当たって、高松空港もお客さんが増えた。丸亀はこれから観光資源の開発をして収益を上げていかなければいけないと思うが、丸亀城周辺、大手町周辺の整備をされていきますね。丸亀は丸亀城というりっぱなお城があるが、年間50万人が来るような整備が急がれると思う。他のお城を見に行ったら、十分な駐車場があるとかバスターミナルが整備されている。丸亀市はこれからの観光客に対しての、お客さんが増えていくこと、これも中心市街地の活性化に繋がっていきますし、コンパクトシティにもつながっていくので、そのへんのお考えを言っていただきたい。

(市長)

観光客というのは交流人口とも言われていて、人口が増えるのももちろん大事だが、交流人口、来てくれる人が増えるのも経済的に価値があると言われている。おっしゃったように丸亀城は人気が高まって年々観光客は増えているが、観光地としての整備は今まででこなかった。これから観光地丸亀というものの意識づくりがいる。最近の観光客の行動は、昔みたいに団体バスで来て買い物して帰るというのは少ない。そうでなくて、個人で来て、じっくり見て、そしてよかったら何回も来るといのが観光客の動きです。来たときにいやな思いをして帰らないようにすることが非常に大事。丸亀市も観光協会があるが、これまではいろんな団体の集まりで観光協会としての動きがなかったが、今度これを組織変えして一般の財団法人に変えた。それは独自で事業ができるようにということを変えている。ここ1～2年ですぐに劇的にということではなく、末永く取り組んでいきたい。

④ 野犬、農地管理等について (男性)

3点ほどあるが、その前に昨年の大雨のときには岡田の中央辺りの道路が水路みたいになった。今回は打越池、亀越池の水利組合で水門の管理をてきぱき早くしてくれて今回は水害がありませんでした。

岡田東の国道32号線の北の方は紅山荘から一本木の間には野良犬が発生している。南は小津森池の下で5～6頭が常に団体行動している。今春、岡田小学校の女子学生が野犬に吼えられて追われた。噛まれることはなかった。それを窓口にはお伝えしているが、野犬は難しいという回答で終わっている。狂犬病とかもあるので心配である。毎年子を産むのでいくらかでも増える。2点目ですが、農地推進員をしている。耕作地が毎年減っている。そして管理面積が増えていて、農家の負担が増えているという実態を報告させていただきます。管理されている人が病気でリタイアされている。リタイアして農地の管理を丸亀のシルバーへ依頼している。シルバーは草刈が目一杯でなかなか行けない。シルバーの人に聞くと、高齢化のためなかなか面積が刈れない。昨日も農道の側溝を刈っていたのですが、炎天下の中で高齢者の人が苦勞しているのを見た。これからこの管理がされなければ遊休農地になって、雑草が生える。管理するにも、耕作するだけの機械は必要で非常に負担がかかる。農家のそういう負担を国とかに提言してほしい。もう1点は、岡田地区だけが基盤整備が遅れている。畦畔が土で草刈に苦慮している。他の地区はコンクリ畦畔になっている。岡田東は6年前から基盤整備の届はしている。一昨年は県で予算が付くという回答をもらっていたが、それが伸びた。もう1年待っている訳です。農家が管理しにくくなっているので、農地の集約、集積をして水路、農道の整備を県や国に農家が困っていることを伝えてほしい。

(市長)

野犬のことですが、昨日も中讃保健福祉事務所長と相談をしたところです。野犬の捕獲は県の保健所が担当です。市の環境安全課の職員と協力してやっている。環境安全課の職員だけで足らなかったら他の職員も応援するなりして集中的に捕まえる。もうひとつは、とにかく餌をやらないようにしてほしい。餌をやらなければ餌つきのわなに入るということもある。餌を与えたら絶対に減らないということなので、地域の中で協力してやっていただきたい。それと農地についてですが、農業委員会や農地の適正化の委員さんと知恵を絞りながら、これからも継続してやっていきたいと思うが農業委員会の構成が変わり、実際はかなり耕作している方が主になるというふうに変りますので、議論も少し変わってくると思う。それに沿ってどういう管理手法があるのかを考えたいと思う。それから圃場整備ですが、4年前に農家の負担率を下げる、市の方が少し余分に負担することにして、土地改良の事業をしやすいように、圃場整備をしやすいように制度を変えたが、しかしそれは事業が採択された後の負担率の問題で、そもそも事業が採択されない。国全体、県全体でその予算が確保できない状態ですが、岡田について、そこばかり何回も待ってもらおうということがないように、担当の方へ言うておく。

(司会)

貴重な時間を市長の懇談に費やしていただきありがとうございました。みなさんの貴重な意見を市政に反映していただき、岡田が住みよい町になるよう、みなさんのご協力をお願いいたします。

(市長)

今日言い足りなかったことは市役所の2階に広聴広報課がある。なんでもそこへ、個人的なことでもけっこうですから言っていただきたい。今日は貴重なご意見ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。